

推薦入試 ・ センター試験 出願始まる

10月になると大学・短大・専門学校への推薦入試が始まる。またセンター試験の出願も始まった。

推薦入試では、小論文を課す大学は増加しており、また、そのウエイトは高いです。小論文で受験生の考え方や人間性を問おうという学校は多く、出題されるテーマも広範囲にわたっています。受験校の小論文のタイプを知り、対策を立てましょう。

小論文は大枠で6タイプに分類できる

課題作文型...「 」について述べよ、というタイプで、与えられたテーマについて自分の意見を書くもの。800字前後で60～90分のものが多い。

文章読解型...ある程度の長文を読ませておいて、それについての読解的な設問、さらにその文章に関連したテーマについて400～800字で自分の意見を論じるタイプ。時間は60～90分が多い。

資料総合分析型...諸統計資料やグラフなどから、分析した結果をまとめて論述するもの。時間は60～120分。

総合力考査型...国語・地歴・公民・英語など、高校における総合学力を考査しようとするもの。字数は200字・400字の組み合わせで、時間は120分など。

教科密着型...小論文という形式になってはいても、英語・国語の教科的試験、さらに理系では数学・理科に関連するもの。字数は設問がいくつもあることから、50字・200字・400字等の組み合わせになる場合もある。時間は60分くらいから120分、180分の場合もある。

その他の型...写真を見せてそれについて論ずるもの。ミニ講義を聴いてそれについて論じるものなど。字数は800字で時間は60～90分が多い。

小論文採点の観点、表現の的確さ 内容の独自性・正確さ 論旨の明確さ 文章表現の豊かさ 漢字やかなづかひの正確さ 字数などで、内容性・論理性が重視されます。

面接では、大学側が受験者と直接の対話をすることによって、受験者の個性や人間性を観察することができるメリットがあります。調査書や小論文でも受験者の資質を読みとることはできますが、面接によって志望動機や大学入学の決意、学部・学科への適性、高校生活全般、基礎学力(口頭試問) 言葉遣いなどを通しての人柄・人間性を確認・チェックできるのです。その意味では、面接は合格者を決定する最終ステップと言えます。面接は、個人面接とグループ(集団)面接の2種類があります。個人面接は大半の大学で実施されていて、受験者1人に対して、2～3人の面接官が対応します。これに対して、グループ面接は数人を対象としたもので、あるテーマについて集団でディスカッションをさせるものです。面接の時間は個人面接で10～20分前後、グループ面接は20～60分が標準となっています。

面接での質問事項は、

**志望動機・理由 将来の希望・抱負 高校生活の様子 趣味・特技
関心を持っている事項 自己アピール**

等が一般的です。時間をとる大学や学部・学科によっては、

学部・学科の専門に関する質問

数学・物理・化学・生物の基礎定理・法則について関連質問

地歴・公民・政治・経済など教科・科目の質問

もされます。栄美通信が出している推薦入学年鑑には、各大学の面接での質問事項がまとめて掲載されているので見てみるといいでしょう。

さて、大学側の採点基準ですが、大学では面接を点数化するなり、段階評価をするなどのケースが多いのですが、複数の採点官が評価することは共通しているようです。

一般的には、質問事項を幾つかのジャンルに分けます。たとえば、

高校生活について(学業・課外活動)

大学生活への期待(志望理由・大学での学習意欲)

志望学部・学科の専門科目への興味常識

などについて3～5段階で評価します。

ある私立大学の採点担当教授の話では、「大学としては、面接で本人の人間性を見ながら、大学生活での学習の意欲・積極性、時には知的好奇心や批判力を見ます。パターン化された回答ではなく、自分が本当に大学でやりたいことを具体的に一步踏み込んで表現できること、そして、受験生の気迫が伝わってくる場合は合格になります。面接者と受験者の質疑が通い合い、受験生の目が輝いてくれば合格ということになります。その意味では大学のキャンパス公開を見学するなど大学の教育内容も少し調べて、明確な目的意識を表現できることが大切です.....」と話されました。

